

「平成18年度学生生活調査」結果の概要

学生の標準的な学生生活状況を把握し、学生生活支援事業の改善を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成18年1月現在で、全国の大学学部、短期大学本科、大学院修士課程、博士課程及び専門職学位課程の学生を対象に実施した「平成18年度学生生活調査」の結果の概要である。

【調査対象者65,043人の抽出数に対する有効回答数は33,180人である。(回収率51.0%)】

(注)1. 学生生活費は学費と生活費からなっている。

学費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計

生活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費の合計

2. 四捨五入した数を使用している表では、内訳の数の合計が、合計欄の数と一致しない場合がある。

3. 大学院専門職学位課程については、今回調査より調査対象とした。

4. 平成14年度までは文部科学省が調査を実施。

1 学生生活費（学費と生活費の合計）

【大学学部(昼間部)】

学生生活費は平成16年度調査より2.4%減少の190万円となっている。
 内容をみると、学費は増加しているが、生活費は減少している。

【大学院修士課程】

学生生活費は平成16年度調査より1.3%減少の175万円となっている。
 内容をみると、学費は増加しているが、生活費は減少している。

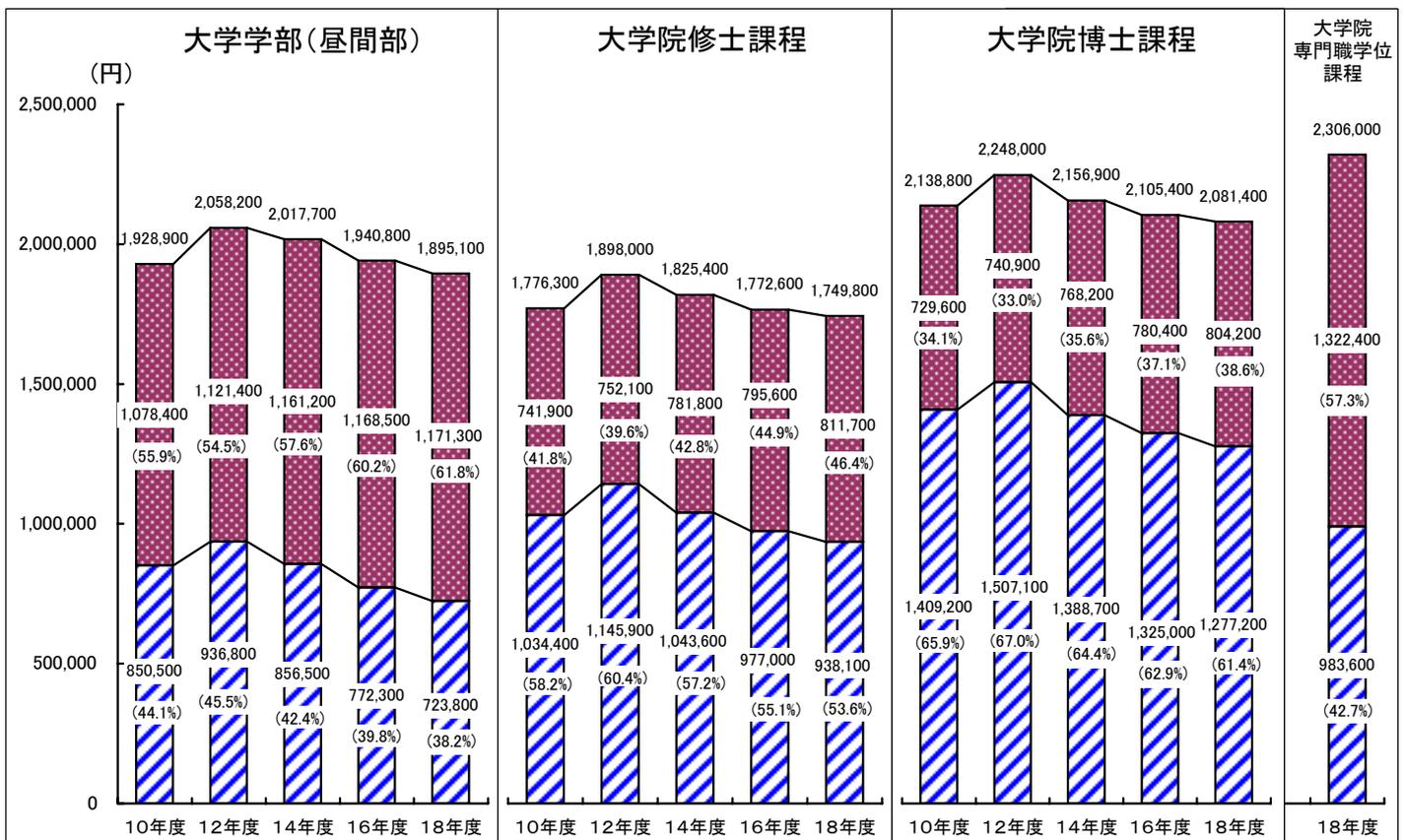
【大学院博士課程】

学生生活費は平成16年度調査より1.1%減少の208万円となっている。
 内容をみると、学費は増加しているが、生活費は減少している。

【大学院専門職学位課程】

学生生活費は231万円となっている。
 内容をみると、学費は132万円、生活費は98万円となっている。

■ 学費 ■ 生活費



学生生活費の伸び率の推移

区 分			H8→H10	H10→H12	H12→H14	H14→H16	H16→H18
			円 %	円 %	円 %	円 %	円 %
大学学部	昼間部	学 費	13,800 (1.3)	43,000 (4.0)	39,800 (3.5)	7,300 (0.6)	2,800 (0.2)
		生活費	▲25,200 (▲ 2.9)	86,300 (10.2)	▲ 80,300 (▲ 8.6)	▲ 84,200 (▲ 9.8)	▲ 48,500 (▲ 6.3)
		学生生活費	▲11,400 (▲ 0.6)	129,300 (6.7)	▲ 40,500 (▲ 2.0)	▲ 76,900 (▲ 3.8)	▲ 45,700 (▲ 2.4)
大学院	修士課程	学 費	18,000 (2.5)	10,200 (1.4)	29,700 (3.9)	13,800 (1.8)	16,100 (2.0)
		生活費	8,900 (0.9)	111,500 (10.8)	▲ 102,300 (▲ 8.9)	▲ 66,600 (▲ 6.4)	▲ 38,900 (▲ 4.0)
		学生生活費	26,900 (1.5)	121,700 (6.9)	▲ 72,600 (▲ 3.8)	▲ 52,800 (▲ 2.9)	▲ 22,800 (▲ 1.3)
	博士課程	学 費	1,300 (0.2)	11,300 (1.6)	27,300 (3.7)	12,200 (1.6)	23,800 (3.0)
		生活費	▲26,900 (▲ 1.9)	97,900 (7.0)	▲ 118,400 (▲ 7.9)	▲ 63,700 (▲ 4.6)	▲ 47,800 (▲ 3.6)
		学生生活費	▲25,600 (▲ 1.2)	109,200 (5.1)	▲ 91,100 (▲ 4.1)	▲ 51,500 (▲ 2.4)	▲ 24,000 (▲ 1.1)

* ()は、前回調査からの伸び率である。

2 設置者別の学生生活費

【大学学部(昼間部)】

国立が150万円、私立が202万円で、私立が国立より52万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より67万円高く、生活費は食費、住居・光熱費の差等により、国立が私立より15万円高くなっている。

【大学院修士課程】

国立が164万円、私立が195万円で、私立が国立より31万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より45万円高く、生活費は食費、住居・光熱費の差等により、国立が私立より14万円高くなっている。

【大学院博士課程】

国立が202万円、私立が230万円で、私立が国立より28万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より33万円高く、生活費は食費、住居・光熱費の差等により、国立が私立より4万円高くなっている。

【大学院専門職学位課程】

国立が200万円、私立が247万円で、私立が国立より47万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より62万円高く、生活費は食費、住居・光熱費の差等により、国立が私立より16万円高くなっている。

(単位：円)

区分	学 費			生 活 費			合 計		
	授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽・嗜好費、 その他の日常費	小 計			
大学学部	国立	512,700	141,400	654,100	566,400	280,400	846,800	1,500,900	
	公立	523,500	142,000	665,500	456,100	274,600	730,700	1,396,200	
	私立	1,153,900	169,300	1,323,200	390,800	303,200	694,000	2,017,200	
	平均	1,008,400	162,900	1,171,300	426,000	297,800	723,800	1,895,100	
大学院	修士課程	国立	502,500	143,800	646,300	680,700	315,600	996,300	1,642,600
		公立	521,300	177,600	698,900	533,600	310,000	843,600	1,542,500
		私立	899,800	191,900	1,091,700	521,600	338,100	859,700	1,951,400
		平均	648,400	163,300	811,700	614,600	323,500	938,100	1,749,800
	博士課程	国立	467,100	254,800	721,900	851,800	443,200	1,295,000	2,016,900
		公立	497,700	297,000	794,700	687,400	471,400	1,158,800	1,953,500
		私立	723,700	326,500	1,050,200	747,600	502,500	1,250,100	2,300,300
		平均	530,100	274,100	804,200	818,400	458,800	1,277,200	2,081,400
専門職学位課程	国立	693,200	215,700	908,900	729,200	363,000	1,092,200	2,001,100	
	公立	615,200	226,000	841,200	485,000	366,800	851,800	1,693,000	
	私立	1,283,300	246,900	1,530,200	574,800	361,900	936,700	2,466,900	
	平均	1,085,700	236,700	1,322,400	621,300	362,300	983,600	2,306,000	

* 生活費は、いずれも国立が私立より高くなっているが、自宅以外の学生の割合が高いため（食費、住居・光熱費の差）である。

(参考) 居住形態別学生数 (大学学部(昼間部))

(単位：%)

居住形態	自 宅	学寮、下宿、アパート、その他
国 立	31.6	68.4
公 立	40.8	59.2
私 立	56.8	43.2
平 均	51.5	48.5

3 居住形態別の学生生活費

【大学学部(昼間部)】

下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の学生生活費を大きく上回っており、その差は62万円である。

設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.7倍、私立の自宅は1.6倍、私立の下宿等は2.4倍となっている。

【大学院修士課程】

下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の学生生活費を大きく上回っており、その差は64万円である。

設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.6倍、私立の自宅は1.4倍、私立の下宿等は2.0倍となっている。

【大学院博士課程】

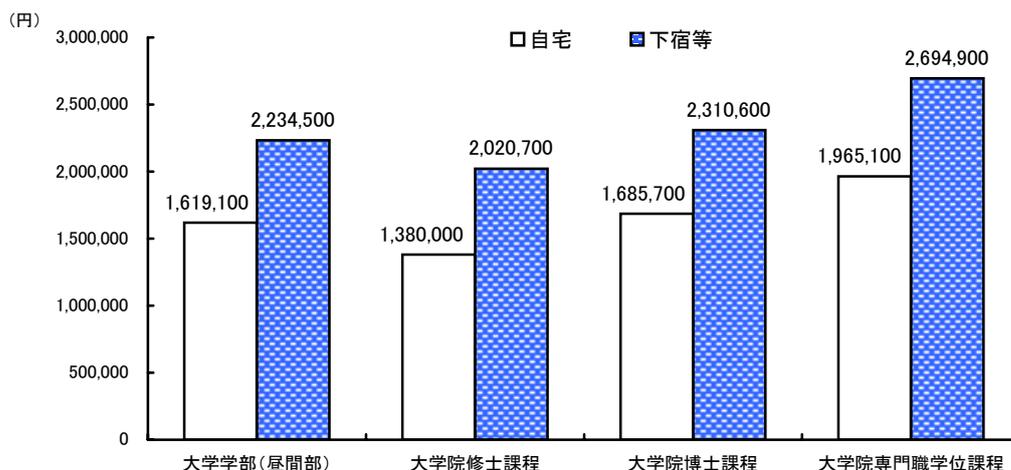
下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の学生生活費を大きく上回っており、その差は62万円である。

設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.4倍、私立の自宅は1.2倍、私立の下宿等は1.7倍となっている。

【大学院専門職学位課程】

下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の学生生活費を大きく上回っており、その差は73万円である。

設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.5倍、私立の自宅は1.4倍、私立の下宿等は1.9倍となっている。



(単位：円)

区分			自 宅	下宿、アパート、その他
大学学部	昼間部	国立	1,045,100 (1.00)	1,769,000 (1.69)
		公立	1,063,200 (1.02)	1,635,600 (1.57)
		私立	1,717,900 (1.64)	2,467,200 (2.36)
		平均	1,619,100	2,234,500
大学院	修士課程	国立	1,177,600 (1.00)	1,872,100 (1.59)
		公立	1,182,400 (1.00)	1,886,500 (1.60)
		私立	1,587,100 (1.35)	2,389,400 (2.03)
		平均	1,380,000	2,020,700
	博士課程	国立	1,586,500 (1.00)	2,219,000 (1.40)
		公立	1,637,400 (1.03)	2,232,500 (1.41)
		私立	1,875,900 (1.18)	2,675,900 (1.69)
		平均	1,685,700	2,310,600
専門職学位課程	国立	1,558,800 (1.00)	2,288,200 (1.47)	
	公立	1,350,500 (0.87)	2,277,100 (1.46)	
	私立	2,104,300 (1.35)	2,997,000 (1.92)	
	平均	1,965,100	2,694,900	

* () は、国立の自宅を基準 (1.00) とした場合の指数である。

4 学生の収入状況

【大学学部(昼間部)】

収入総額は平成16年度調査より1万円減少の219万円となっている。

【大学院修士課程】

収入総額は平成16年度調査より1万円増加の208万円となっている。

【大学院博士課程】

収入総額は平成16年度調査より6万円増加の283万円となっている。

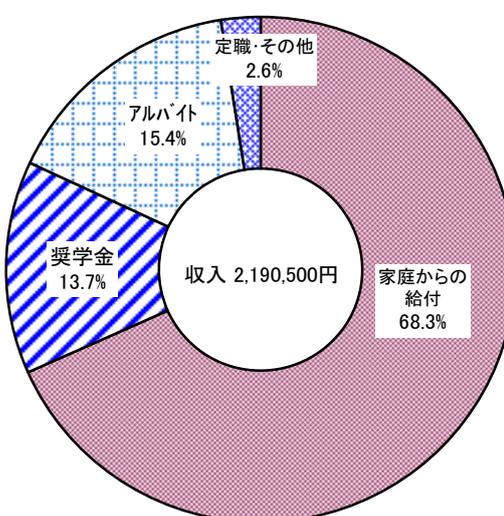
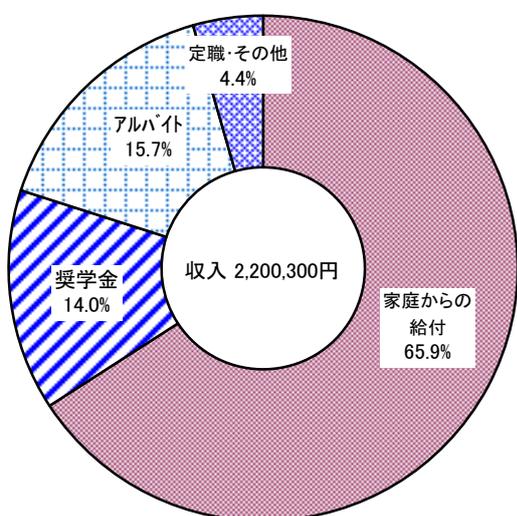
【大学院専門職学位課程】

収入総額は285万円となっている。

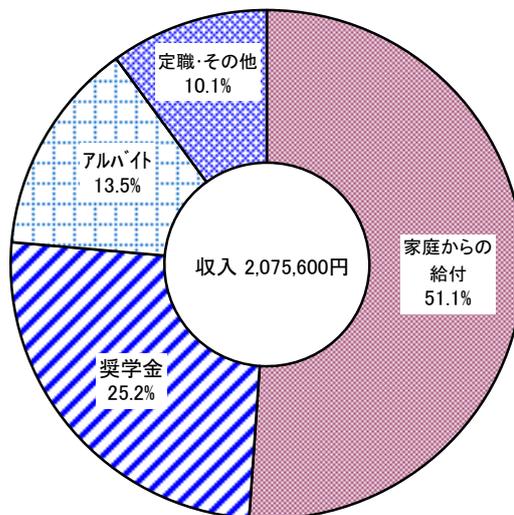
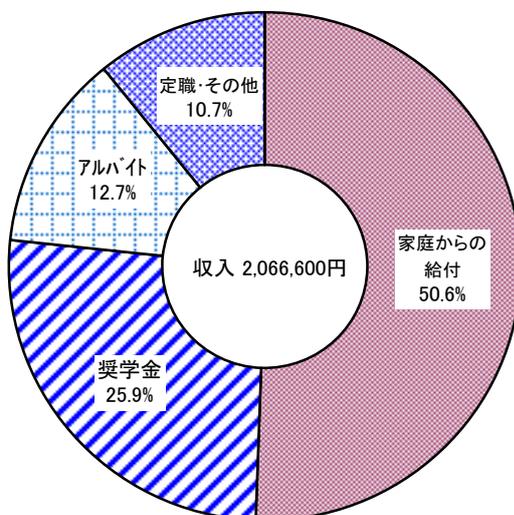
平成16年度

平成18年度

【大学学部(昼間部)】



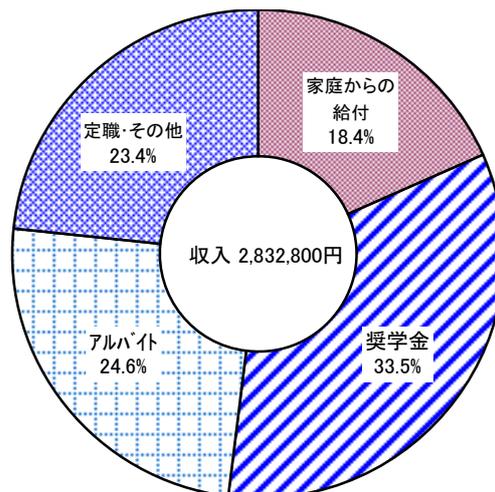
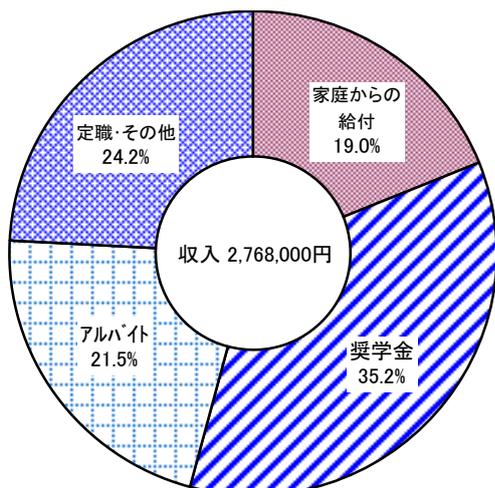
【大学院修士課程】



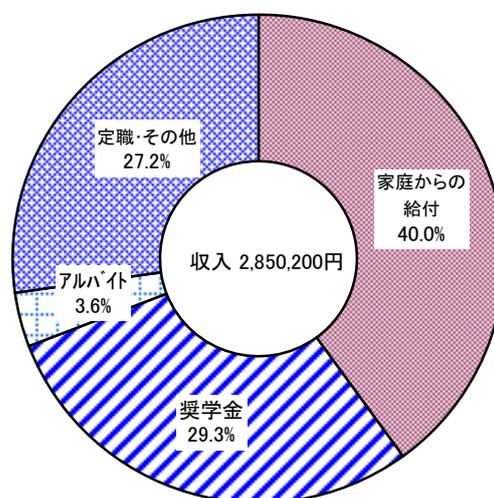
平成16年度

平成18年度

【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



(単位:円)

区分	家庭からの給付	奨学金	アルバイト	定職・その他	合計
大学学部(昼間部)	16 (65.9) 1,449,200	(14.0) 308,500	(15.7) 344,700	(4.4) 97,900	(100.0) 2,200,300
	18 (68.3) 1,496,300	(13.7) 300,300	(15.4) 336,300	(2.6) 57,600	(100.0) 2,190,500
大学院修士課程	16 (50.6) 1,046,300	(25.9) 535,700	(12.7) 263,100	(10.7) 221,500	(100.0) 2,066,600
	18 (51.1) 1,060,900	(25.2) 523,200	(13.5) 281,000	(10.1) 210,500	(100.0) 2,075,600
大学院博士課程	16 (19.0) 526,800	(35.2) 974,500	(21.5) 596,200	(24.2) 670,500	(100.0) 2,768,000
	18 (18.4) 521,200	(33.5) 949,900	(24.6) 697,600	(23.4) 664,100	(100.0) 2,832,800
大学院専門職学位課程	18 (40.0) 1,139,500	(29.3) 833,700	(3.6) 103,000	(27.2) 774,000	(100.0) 2,850,200

* ()は、合計に占める割合(単位:%)である。

収入の伸び率の推移

区分	H8→H10	H10→H12	H12→H14	H14→H16	H16→H18
大学学部(昼間部)	▲0.7%	4.8%	4.1%	▲1.7%	▲0.4%
大学院修士課程	2.0%	5.6%	2.2%	▲2.2%	0.4%
大学院博士課程	▲1.9%	6.8%	1.7%	▲0.3%	2.3%

5 家庭の年間平均収入額

【大学学部(昼間部)】

平成16年度調査より0.5%増加の846万円となっている。設置者別にみると私立が一番高く、865万円となっている。

【大学院修士課程】

平成16年度調査より4.0%減少の798万円となっている。設置者別にみると私立が一番高く、863万円となっている。

【大学院博士課程】

平成16年度調査より3.2%減少の778万円となっている。設置者別にみると私立が一番高く、960万円となっている。

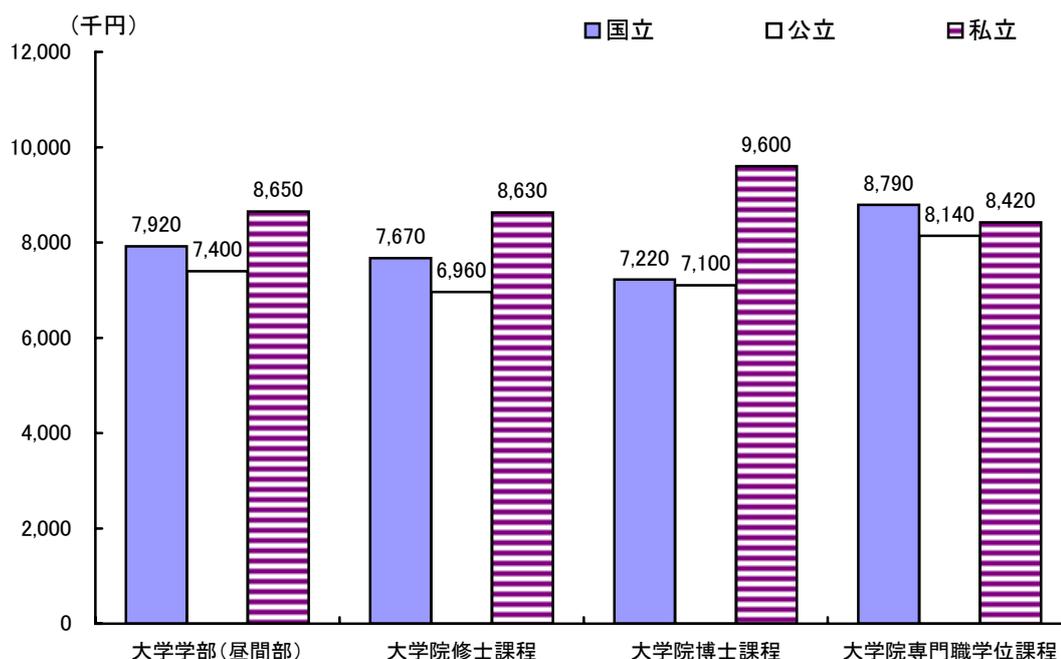
【大学院専門職学位課程】

平均で853万円、設置者別にみると国立が一番高く、879万円となっている。

(単位：千円)

区 分		大学学部 (昼間部)	大 学 院		
			修士課程	博士課程	専門職学位課程
18 年 度	国 立	(1.4) 7,920	(▲2.8) 7,670	(▲3.1) 7,220	8,790
	公 立	(▲1.3) 7,400	(▲15.4) 6,960	(▲18.0) 7,100	8,140
	私 立	(0.5) 8,650	(▲3.9) 8,630	(▲0.3) 9,600	8,420
	平 均	(0.5) 8,460	(▲4.0) 7,980	(▲3.2) 7,780	8,530
16年度平均		(▲6.1) 8,420	(▲6.9) 8,310	(▲0.9) 8,040	

* ()は、前回調査からの伸び率(単位：%)である。



6 家庭の年間収入階層別にみた学生数の割合

【大学学部(昼間部)】

総務省の家計調査(平成18年)から全国全世帯の45～54歳の世帯主(学生の家庭の世帯主年齢と想定)の五分位階層区分(集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ、その世帯数を5等分したもので、収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したもの)を推計し、これに今回調査を当てはめて各区分別学生数をみると、国公立とともに第Ⅴ五分位は低い分布を示している。

また、前回調査と比べて、国公立とともに第Ⅰ五分位の割合が減少している。

(単位：%)

区 分	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 (～5,044) 4,881千円未満	千円 (5,044～6,934) 4,881千円以上 6,789千円未満	千円 (6,934～8,588) 6,789千円以上 8,495千円未満	千円 (8,588～10,929) 8,495千円以上 10,906千円未満	千円 (10,929～) 10,906千円以上
国 立	(25.8) 17.1	(15.0) 19.4	(24.4) 29.5	(20.8) 19.3	(14.1) 14.6
公 立	(28.9) 22.6	(15.2) 21.7	(23.1) 27.9	(20.1) 17.0	(12.7) 10.9
私 立	(23.1) 16.1	(16.0) 19.4	(19.3) 20.5	(26.5) 28.3	(15.1) 15.7
平 均	(23.8) 16.6	(15.8) 19.5	(20.4) 22.5	(25.2) 26.2	(14.8) 15.3

* ()は、平成16年度調査の額及び割合である。

7 アルバイト従事状況

【大学学部(昼間部)】

アルバイト従事者の割合は平成16年度調査より0.4ポイント減少の76.4%となっている。

【大学院修士課程】

アルバイト従事者の割合は平成16年度調査より10.1ポイント増加の78.9%となっている。

【大学院博士課程】

アルバイト従事者の割合は平成16年度調査より15.6ポイント増加の77.6%となっている。

【大学院専門職学位課程】

アルバイト従事者の割合は28.7%となっている。

(単位：%)

区 分			平成16年度	平成18年度
大学学部	昼間部	アルバイト従事者 家庭からの給付のみで修学可能	37.3	41.1
		アルバイト従事者 家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	39.6	35.4
		計	76.8	76.4
	アルバイト非従事者	23.2	23.6	
大学院	修士課程	アルバイト従事者 家庭からの給付のみで修学可能	23.8	31.7
		アルバイト従事者 家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	44.9	47.2
		計	68.8	78.9
	アルバイト非従事者	31.2	21.1	
大学院	博士課程	アルバイト従事者 家庭からの給付のみで修学可能	8.1	12.2
		アルバイト従事者 家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	53.9	65.4
		計	62.0	77.6
	アルバイト非従事者	38.0	22.4	
大学院	専門職学位課程	アルバイト従事者 家庭からの給付のみで修学可能	/	8.8
		アルバイト従事者 家庭からの給付のみでは修学不自由・困難		19.8
		計		28.7
	アルバイト非従事者	71.3		

* 「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難」とは、家庭からの給付がない者を含む。

* 「大学院」のアルバイトは、ティーチングアシスタント (TA) 及びリサーチアシスタント (RA) を含む。

8 奨学金の受給状況

【大学学部(昼間部)】

全学生のうち、日本学生支援機構や大学等の奨学金を受給している者の割合は、平成16年度調査より0.2ポイント減少し、40.9%となっている。

【大学院修士課程】

全学生のうち、日本学生支援機構や大学等の奨学金を受給している者の割合は、平成16年度調査より0.3ポイント減少し、54.3%となっている。

【大学院博士課程】

全学生のうち、日本学生支援機構や大学等の奨学金を受給している者の割合は、平成16年度調査より2.2ポイント減少し、65.2%となっている。

【大学院専門職学位課程】

全学生のうち、日本学生支援機構や大学等の奨学金を受給している者の割合は、60.2%となっている。

(単位：%)

区 分	8年度	10年度	12年度	14年度	16年度	18年度
大学学部 (昼間部)	21.2	23.9	28.7	31.2	41.1	40.9
大学院修士課程	40.1	42.6	50.5	48.4	54.6	54.3
大学院博士課程	65.7	66.5	65.6	67.7	67.4	65.2
大学院 専門職学位課程						60.2

9 通学時間（片道）

【大学学部(昼間部)】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道70分となっている。

地域別にみると、東京圏、京阪神はその他の地域に比べ通学時間が大きく上回っている。

【大学院修士課程】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道66分となっている。

地域別にみると、東京圏、京阪神はその他の地域に比べ通学時間が大きく上回っている。

【大学院博士課程】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道67分となっている。

地域別にみると、東京圏、京阪神はその他の地域に比べ通学時間が大きく上回っている。

【大学院専門職学位課程】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道64分となっている。

地域別にみると、東京圏、京阪神はその他の地域に比べ通学時間が大きく上回っている。

(単位：分)

区分			自宅	学寮	下宿、アパート、 その他	平均
大学学部	昼間部	東京圏	76.7	22.4	24.5	54.5
		京阪神	77.9	11.7	18.0	53.6
		その他	60.0	9.0	12.6	33.2
		全 国	70.2	14.2	17.1	44.3
大学院	修士課程	東京圏	74.5	32.7	28.3	53.4
		京阪神	73.1	17.5	19.3	43.9
		その他	54.3	9.6	14.3	27.4
		全 国	66.2	15.4	18.7	38.6
	博士課程	東京圏	70.8	29.3	33.1	52.0
		京阪神	72.1	14.9	22.3	43.0
		その他	60.7	10.5	21.0	35.2
		全 国	66.7	16.1	24.5	41.9
	専門職学位課程	東京圏	66.1	17.6	39.1	55.1
		京阪神	67.9	12.7	20.0	47.5
		その他	53.1	14.0	16.5	32.6
		全 国	63.9	16.2	25.7	46.9

* 「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

10 週間平均生活時間

【大学学部(昼間部)】

設問項目のうち、一週間の生活時間の中で最も多く費やすのは「大学の授業」となっている。

設置者別にみると、国公立のいずれも「大学の授業」が最も多く、その時間はいずれも18時間強となっており、国公立別の差はみられない。

(単位：時間)

区分			大学の授業	その他の学習	文化・体育等の サークル活動	アルバイト等の 就労活動
大学 学部	昼 間 部	国立	18.79	14.36	5.88	8.33
		公立	18.75	12.56	4.44	10.01
		私立	18.66	10.68	6.94	10.31
		平均	18.69	11.44	6.64	9.93

* 平成18年11月における不特定な一週間を調査